

意見交換会等における主な意見・質問と回答

【再編計画改定全般について】

質問	回答
具体的な学校再編計画は、いつ示されるのか。	基本的な考え方に基づき、具体的な学校再編計画を検討し、今年 9 月頃には素案として示したい。
学校再編計画は、当初、平成 31 年度までの計画であったが、今回の改定はこの計画期間内で改定するものか。	今後の児童・生徒数や教育を取り巻く環境の変化などもあることから、今後もそれらを見極め計画期間も含め改定をしていきたい。
再編計画改定は、これまで示している中後期の再編の組み合わせを白紙にしたものになるのか。 また、新たに再編対象となる学校もあるのか。	これまで示している中後期の組み合わせについては、さまざまな議論の中で出されたものであり、再編計画改定の具体的な検討を進める中では、中後期の組み合わせを基本に検討していくことになる。 なお、通学区域の見直し等により、新たな再編対象校となる場合も考えられる。
前期の学校再編での課題とその対応策が、基本的な考え方（案）にどのように反映されているのか見えない。	前期の学校再編での課題等については、基本的な考え方（案）の中で、保護者や地域住民への適時適切な情報提供や校舎の改修・改築の方法など、対応策を盛り込んでいる。
統合後の跡施設がどのようになるかを地域に説明していくべきではないか。	統合後の跡施設については、区全体としての方針を決めていくことになる。
学校は災害時の避難所になっており、備蓄倉庫なども設置されているが、統合により、その機能はどのようになるのか。	避難所の確保や備蓄物資の保管について、さまざまな視点で関係部署が協議し確保していく。

【前期の学校再編について】

質問	回答
学校再編の効果として、良かった点だけが記載されているが、前期での学校再編で課題等はなかったのか。また、課題等も記載すべきではないか。	通学の安全対策など、学校ごとの課題への早期対応や保護者や地域住民への情報提供の強化、校舎改修の手順などに課題があったと認識しており、基本的な考え方に盛り込んでいく。
白桜小については、統合後、毎年区域外就学や指定校変更をする児童が多く、再編計画で目指した学校規模にはなっていないのではないか。	前期の学校再編は、特に小規模化の著しい学校を解消することが目的であった。白桜小学校については、区域外就学や指定校変更も多いが、一定規模の学校として運営できている。

白桜小学校・南中野中学校のアンケート調査は、全員に行ったのか。	白桜小学校・南中野中学校で統合を経験した児童・生徒と保護者全員を対象にアンケート調査を実施した。
前期で3校を2校にした野方小学校・丸山小学校・沼袋小学校の統合で課題などはなかったか。	通学区域が2つに分かれる沼袋小学校の児童が、統合前から指定校変更したことにより、小規模化がさらに進んでしまった。一方で、沼袋小学校の保護者などからは、統合によりPTAの役員や行事などの役割が統合したことにより、軽減されてよかったとの意見もあった。
<p>(意見)</p> <p>学校単位のアンケート調査では、結果が偏ってしまう。東中野地域は、子どもたちの通学する学校がバラバラになり、学校の閉校により防災拠点を失われたことなどで、今まで維持してきたことができなくなった。そういうことのないよう地域の実態等を十分把握して再編計画の改定はしてもらいたい。</p>	

【通学区域・通学路】

質問	回答
小中一貫教育校の設置を前提に、小中学校の通学区域の整合性を図るのか。	すべての学校において、小中学校の9年間を見通した学校間の連携を推進するため、小中学校の通学区域の整合性を可能な限り図ることとしたものであり、小中一貫教育校の設置を前提としているものではない。
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通学距離が特に小学校の低学年では、課題となると思うので、具体的な検討にあたっては、通学距離について考慮してもらいたい。 ・ 町会・自治会によっては、いくつかの学校に分かれて児童・生徒が通学していることから、地域での行事等で苦労しているところもある。通学区域の見直しにあたっては、町会・自治会も考慮してもらいたい。 	

【学校規模等】

質問	回答
再編計画では 40 人学級を前提としていたが、再編計画の改定にあたり 35 人学級として推計した理由は何か。	国・東京都の動向や普通教室の確保などを考慮し、35 人学級として推計したものである。
具体的な再編計画を検討していく上では、児童・生徒数や学級数の推計は、国家公務員宿舎の移転や大規模集合住宅の建築・廃止なども情報収集し、推計していくべきである。	具体的な検討にあたっては、必要な情報収集をして推計をしていきたい。
小規模校であっても、学校と地域が協力して学校運営をしており、不都合を感じていない。小規模校で何が課題となるのか。	学年 1 学級の小規模校では、子どもたちの人間関係が固定化することで、コミュニケーション能力が育ちにくく、また、教員数が限られるため、少人数指導や習熟度別指導などの多様な授業形態をとることが難しく、教員が多忙となることで、一人一人の子どもと向き合える時間の確保や教員の授業力の向上が難しくなる。

【校舎改築・改修】

質問	回答
学校再編に伴う施設改修について、学校運営に支障をきたさないようにすべきである。	校舎の改修・改築にあたっては、できる限り学校運営に支障をきたさないように、統合新校として使用しない学校の仮校舎としての活用などを検討していく。

【意見交換会等】

質問	回答
意見交換会等で出された意見などは、基本的な考え方に反映されるのか。	意見交換会等で出された意見などは、教育委員会に報告し、教育委員会で取り扱いを協議することになる。
具体的な再編計画の素案は、いつ頃示されるのか。また、意見交換会等の開催はされるのか。	具体的な再編計画の素案は、今年の 9 月を目途に策定したいと考えており、その段階で保護者や区民などを対象に意見交換会を開催する。
素案の策定までに、各学校の PTA などと意見交換会はしてもらえるのか。	各学校の PTA などから要望等あれば、基本的な考え方について説明することも考えている。